

年月日 平日＝2010年02月11日（木・小雨）
休日＝2010年02月28日（日・雨のち晴）

回数 2008期・第20回平日巡礼
2009期・第9回平日巡礼＝17名
2009期・第9回休日巡礼＝25名

巡礼寺・順 ●三十三札所 正定寺（しょうじょうじ）
本尊・阿弥陀如来
山号・見海山
宗派・浄土宗・（増上寺（東京・芝）・末寺）
草創・草創・1181-82（養和年間）
・安徳天皇の時代、創立当初は真言宗で、来迎庵といった。1428-87（正長・文明年間）臨濟宗、建長寺派に属す。1598（慶長三年）浄土宗に属し正定寺と称して今日に至る。境内に薬師如来石仏像・三十三観音石仏像を祭祀。
・境内の一郭に、灯台かと思われる、真っ黒な仏像があります。

●三十二札所 善應院（ぜんのういん）
本尊・十一面観世音菩薩
山号・稲取山
宗派・曹洞宗・（永明寺・末寺）
草創・1441（嘉吉元年）
・室町時代、鈴木三位大臣の子孫、鈴木孫七郎繁時により創立、稲昌山と言い真言宗でした。
1616（元和二年）繁時から七代の孫、鈴木助七郎繁元が永明寺（富士市）七世大室存道德化を受け曹洞宗に改宗山号も稲取山・善應院と改め今日に至る。改宗山号も稲取山・善應院と改め今日に至る。
・稲取は昭和20年米軍の空襲で、壊滅状態になりました。善應院も被害を受けましたが直撃は受けず本堂は大修理、庫裏は改築しました。

●三十四番札所 三養院（さんよういん）
本尊・釈迦如来
山号・千手山
宗派・曹洞宗（昌溪院・末寺）
草創・草創・1501-21（文亀・永正年間）

- ・ 葦山の昌溪院を開山した。竺仙宗僧が創立、千手庵と称していた。創立年代は不明ですが竺仙宗僧は永正八年に、没しているのので、それ以前の文亀年間(1501-04)か永正年間(1504-21)の間と推測される。創立当時は別の場所であったが、後年現在地に移された。
- ・ 1590(天正十八年) 下田城(現・下田公園)が豊臣秀吉の1万4千余の水軍に攻撃された、城主の清水上野介康英は妻と子の三人で逃れ、この千手庵に身を隠した三人を養いし故、三養院と寺号を改めたと云われる。
- ・ 八功德」扁額(水戸黄門の師で、関羽將軍の末裔の筆)や、塗り駕籠、等が保存されている。

●三十五番札所 栖足寺 (せいそくじ)

本尊・釈迦如来

山号・鳳儀山

宗派・臨濟宗(鎌倉、建長寺・末寺)

草創・草創・1319(元応元年)

- ・ 後醍醐天皇の時代、下総・佐倉の城主、千葉勝政の三子、徳瓊覚照の開山、1363(正平十八年)足利氏の兵乱により、全て焼失する。その後再建するも、1854(安政元年)再び焼失。現在の本堂は1886(明治19年)再建です。
- ・ 河童の伝説があります。寺に保管されている「河童の瓶」。その昔、河津川に住んでいた河童が捕らえられたのを栖足寺の住職が助けてやり、そのお礼にと置いていった瓶で、川のせせらぎの音が聞こえてくると、云われる。

●三十六番札所 乗安寺 (じょうあんじ)

本尊・十界曼荼羅

山号・長運山

宗派・日蓮宗(身延山、久遠寺・末寺)

草創・1596-1615(慶長年間)

- ・ 伊豆八十八ヶ所霊場唯一の日蓮宗。
- ・ 縄地金山が採掘盛んな頃、縄地に身延山・久遠寺二十二世、日遠が創立した寺で後年、現在地に移された。
- ・ 日遠が当時、徳川家康の居城であった、駿府城へ赴いた時、何が原因か家康の激怒を被り、斬罪に処せられる所を、家康の側室で日蓮宗の信者であった、お満の方の助命願いで許された。日遠はお満の方の生地、河津へ女駕籠で運ばれた。その駕籠が寺宝として保管されている。

距離

約4 Km+約0.5 Km+約12 Km+約4 Km+約0.5 Km=約

21 Km

タイム 下土狩6:00-河津駅(トイレ)-東泉院発8:00-正定寺8:55~9:15-善應院9:25~9:50-見高入谷-標高150mの峠11:00-田中-桜公園涅槃堂トイレ11:50-三養院12:25~13:30-栖足寺14:30~45-乗安寺14:55~15:15-温泉(休日)

トイレ 河津駅、河津桜公園

温泉 11日=河津・踊り子会館900-(桜祭り割引)
28日=湯ヶ野・国民宿舎500-(休憩所はロビー)

寺経費 三養院=1000-

参考資料 「伊豆霊場振興会」HP

平日は霧雨、休日は雨だった。前回終点の東泉院まえから国道135号を稲取に向かう。国道で傘をさして歩くのは危険で怖い。

すぐの黒根トンネルは、歩行帯が狭く「歩き巡礼」で唯一バスに乗る場所。旧道の入り口で乗車し、出たところの公園で降車する。乗車時間は5分程。これも安全第一を考えれば止むを得ない。

トンネルの先から右折して伊豆急行を潜り海岸線に出る。この道沿いには有名な「つるし雛の館」がある。シーズン中だが、早朝で雨模様の平日では閑散



としている。

稲取港に入る。休日時、海は黒い波がうねり、強い横殴りの風雨が襲う。左

手に大きな岩をくり抜いた「もやい石」があった。昔、船をこの石に繋いだと説明板にある。ちなみに、ロープの結束に「もやい結び」がある。英語は「ブーリン・ノット」。山でも同じ結び方を使う。

港の左先に黒い大きな仏像が見えれば正定寺は近い。この大きな仏像は灯台の役割も果たしているらしい。ただ、陸の方角を向いているが、逆に海を向いた方が良くのではないかと思うが・・・。

本堂でお勤めを済ませます。ここの住職は見たことはないが、浄土宗の大本山・東京・芝、「増上寺」の末寺とある。御朱印はいつも年配のご母堂がやってくれる。天井は、あらゆる書体で「寿」が書いてある。



正定寺

善應院住職



平日時はお菓子・お茶を用意してくれたが時間が厳しいので、いただかないで辞した。

ここから善應院は近い。埠頭には大きなウミネコが寒そうに固まっていた。ウミネコは別名「ゴメ」とも呼ぶ。

善應院に着いた。住職と一緒に勤めをしてくれた。ここの住職は温かい感じの方で嬉しい。やはりここでもお菓子・お茶を用意してくれたが、時間がなく出発。休日時は雨がひどく、カッパを着たり脱いだりが大変だった。

再び国道に出て河津に向かう。今回はここから海岸線を今井浜まで行き、別荘地を越えて河津に出たが、今回は見高入谷から、標高約150mの峠を越え河津・田中に出るルートを選んだ。こちらは、今井浜ルートより1時間ほど短縮出来る。

この道は江戸時代の河津～稲取を結ぶ主要道。道々には当時の往来をしのぼせるものがある。入谷集落には、手入れが行きとどいた西国供養塔があり祀ってあった。

これらは現在各地で見ることが出来るが、昔、秩父（33ヶ所＋1ヶ所）・西



西国供養塔



伊豆横道十四番札所・小峯堂

国（33ヶ所）・坂東（33ヶ所）の100ヶ所巡礼を満願結願した場合、作られることが多かった。交通機関が発達していない昔、これら行ったことは至難の業と思われる。

田中地先に出ると伊豆横道＝十四番札所・小峯堂がある。ここで小休止。休日はここでようやく雨が止んだ。河津桜は、平日時はいまひとつ。休日は、やや遅かった。それでも両日とも公園内を北上し楽しんだ。

河津川を遡り川津筏場（国土地理院二万五千図では、川津の表記）に着けば



三養院とお弟子さん



三養院に到着。壊れそうな古い階段を上ると境内に出る。苔むしているの下りは脇の道が安全。平日はお弟子さんが対応。休日は法事で出掛けていたが、お勤め終了間際駆けつけてくれた。

ただ休日時、多くの方が雨で濡れた靴下で本堂に上がり、板の間に濡れた足形を多く残し注意を受け、恥じ入る次第だった。

自分の家ではこのような事は絶対あり得ないだけに、今後このような事のないようお願いしたい。巡礼は「させて頂いている」の気持ちを忘れてはならない。昼食はバスの中で済ませた。

栖足寺に向かう。平日は河津川の左岸、休日は右岸を歩いた。(川は上流から見て右岸、左岸を決める) 両日とも桜はまあまあだった。



平日班



休日班

この日チリの地震で津波警戒警報が出た。河津町の同報無線が警戒を報じ、桜公園の河津川には、多くの消防団員が警戒を続けていた。

この日風邪気味のHさんが、午前一杯で河津駅から電車で帰ることになった。ところが、河津駅に行くとき伊豆急行が止まっていて、多くの乗客でごった返している。ともかく、Hさんに最終的に電話をくれるよう私の携帯番号をメモして渡し、午後の巡礼に向かった。



栖足寺



乗安寺

小一時間で栖足寺着。ここは古い感じのお寺だ。お勤めを終わり境内で記念撮影。この寺には、カップ伝説があり境内に説明板があった。

今日最後の寺は大乗寺。ここは伊豆札所唯一の日蓮宗。普通、日蓮宗と浄土真宗は般若心経はやらないが、ここはうるさいことは言わない。

最終寺の大乗寺を出たのが15:00。Hさんから依然連絡がないので、バスで河津駅に向かう。相変わらず乗客がごった返す中で、Hさんを3~4回呼び出して貰ったり、Aさんが巡礼旗を振りかざし捜したが結局分からなかった。家の旦那様にも連絡はないという。

温泉は「踊り子会館」が満杯状態だった。しかし、河津を離れると後でHさんから連絡があった場合、拾いに来れないので湯ヶ野の国民宿舎で温泉をした。私の携帯は入浴しない方がロビーで見守った。

温泉が終わり17時なっても連絡がないので皆さんも家があるので後ろ髪を引かれる思いで河津を後にする。バスのピアも苦く皆も巡礼が終わった爽快感がなく何となく元気ない。

しかし18時、遂に旦那様から今無事帰宅の携帯が入り安堵した。Hさんは連絡の必要性を強く感じていたが、携帯がなく公衆電話が長蛇の列で結局、連絡が出来なかったようだ。

このような緊急例は今後ないとも言えないが、公衆電話などが使えない場合は、積極的に民家の電話を借りて掛けるのが一番です。この場合、100円くらい奮発しましょう。とにかく、今回も無事巡礼は終わった。ご苦労様でした。合掌。



平日班
栖足寺

休日班
栖足寺

